

ICT活用事例 C2（協働での意見整理）

小学校6年・総合的な学習の時間 「船津ふるさと再発見！！」

使用機器：1人1台端末 使用アプリ：ホワイトボードソフト

〈ICT活用のポイント〉

- ①付箋を貼ったり、マーカーで書き込んだりすることで、自分やグループの考えを整理したり、分析したりすることができる。
- ②データを保存しておくことで、いつでも学習したことへ立ち戻ることができる。

1 単元の目標

船津地区の歴史や文化について調べたり、それらを守ろうと努力する人々と関わったりすることを通して、先人の努力や保護をする人々の努力を理解し、歴史や文化を継承するための取り組みの在り方について考えとともに、地域に愛着を深め、自らの生活や行動に生かすことができるようにする。



2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①歴史や文化などは互いに働きかけ合いつながりあってその価値を形成していることを理解している。	④船津地区の歴史や文化などの関わりを通して感じた関心をもとに、新たな課題設定や学習計画を立て、解決の見通しをもっている。	⑧異なる意見や考えを受け入れ、その違いを生かして船津地区の歴史や文化に関する探究活動をしようとしている。
②歴史や文化などは、これらに関わる人々の思いや願いがあることを理解している。	⑤得た情報を基に、さらに根拠となる関連情報を集めるなど、情報を蓄積している。	⑨学んだことを自分の生活と関連付けて考え、自分のできることを実行しようとしている。
③目的や事象に応じ適切に、情報収集や比較・分類・関連付けなど分析を行っている。	⑥必要な情報を比較したり関連付けたりしながら、情報を整理し、体験なども踏まえ、多面的・多角的に視点で自分なりの意見や考えを深めている。	
	⑦伝える相手や目的に応じて、自分の考えをまとめ、適切な方法で表現している。	

3 単元について

本単元は、「船津地区の歴史や文化、これからの町づくり」を探究課題とし、船津地区の主な文化財を学習材として学習している。

1学期には、船津地区の主な文化財を調べる学習を通して、歴史や文化は「思いや願い、祈りが込められている」ものが現在も残っていることが認識として共有された。その認識から、今後への展望として、「未来につなげていきたい」という思いが共有された。

2学期に入り、1学期の思いを具現化するために、「船津地区の文化財について、デジタルパンフレットを作って紹介しよう」という小単元で学習を進めている。児童は紹介したい文化財について調べを進める際、インターネットや資料だけでは地域の文化財の情報は得にくいことに気付いた。

そこで、「専門家に聞いてみたい。」という意見が出た。しかし、「全て聞く必要があるのか。自分たちの努力でもう少しわかることもあるのではないか。」と考える児童が出てきた。その意見がきっかけで、「専門家に聞く必要があるか、ないか。」を話し合い、最終的に「専門家に聞くこと」をまとめていった。それらから得られた情報を基に、情報を整理し、デジタルパンフレットにまとめていった。

4 指導と評価の計画 本実践に関わる小単元（21時間）

時間	学習内容	知	思	態	評価方法
1 ～ 5	○オリエンテーション ○自分の紹介したい文化財を選ぶ。 ・調べまとめる。 ・まとめたものを交流し、選ぶ。	①	④		・発言 ・ワークシート
6 ～ 15	○自分の紹介したい文化財についての情報を集める。 ・インターネットで調べる。 ・資料を使って調べる。 ・専門家へのインタビューをする。 ○集めた情報を整理する。 ※この過程を繰り返す。	② ③	⑤ ⑥	⑧	・発言 ・ワークシート
16 ～ 20	○デジタルパンフレットの作成の仕方を確認する。(国語科) ○デジタルパンフレットにまとめる。		⑦	⑨	・ワークシート (ホワイトボードソフト)
21	○5年生に紹介する。			⑨	・発言 ・ワークシート

5 ICTの効果的な活用について

ホワイトボードソフトは、ホワイトボードのデジタル版のようなアプリである。付箋を貼ったり、マーカーで書き込んだりすることで、自分やグループの考えを整理したり、分析したりすることができる。

本単元では、情報収集の学習過程において、「専門家に聞く必要があるかないか。」について、ホワイトボードソフトを使って話し合い、最終的に「専門家に聞くこと」をまとめていった。

始めは学級全体で話し合うことで、多様な視点からの意見が出されるのではないかと考え実施した。しかし、学級全体だと付箋を動かすことや意見を出すことに不自由さが出てきた。そこで、学級全体で話し合いを行うのではなく、

同じテーマ（文化財）で小グループ（5、6人）にし、話し合いを進めた。そうすることで、話し合いに自由度が生まれ、最終的に「専門家聞くこと」が整理されていった。ここから、ICTの活用のポイントの一つとして、話し合いの目的によって、ホワイトボードソフトを使ったやり取りの人数は考慮していく必要があることがわかる。本実践では、小グループにすることで、付箋を自由に動かす、その理由を話し合うことで、話し合いが深まり、まとめていくことができた。

